

令和6年度 第4回 藤沢市立羽鳥中学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2024（令和6）年12月11日（水）13時30分開会

場所 藤沢市立羽鳥中学校 被服室

No	氏名		出欠
1	青木 茂道	青少年育成協力会会長	○
2	小河 愛由美	三者連携・民生委員	○
3	齋藤 美江子	元学校評議員 元PTA会長	欠
4	岩淵 富美代	元学校評議員	○
5	戸塚 渉	明治市民センター長	欠
6	西塔 光好	元中学校教頭	○
7	林 久美	元学校評議員	○
8	秋田 典子	児童委員	○
9	能勢 敏之	民生委員	○
10	若林 理恵	藤沢市社会福祉協議会明治地区担当 CSW	○
11	市村 慶子	社会福祉法人いきいき福祉会ラポール城南	○
12	三觜 恵加	前PTA会長	○
13	伊藤 由紀子	PTA会長	○
14	深津 礼子	本校校長	○
15	溝尾 昌也	本校教頭	○

次 第	<p>1. 開会 校長挨拶（深津校長）</p> <p>学校は大きな行事が終わっているが、先日2年生が職場体験を行った。職場体験実施にあたっては、仲介業者を入れ、事業所の確保を依頼したところ、多くの事業所をおさえて頂いた。事業所は銀行や学校をはじめ多岐にわたる業種であった。まとめ学習が2年生廊下に掲示しているとともに、学校だよりもその感想について掲載した。</p> <p>その他、朝食講話を1、2年生対象に行い、近隣小学校の栄養教諭を講師として招いた。また、6組（特別支援学級）が合同レクリエーションに参加、ミニコンサート等を実施した。さらには、生徒会主催のレクリエーションも大変盛り上がった。</p> <p>若林委員 学校便りに掲載されている事業所はどこか。</p> <p>深津校長 美容院、スーパー、銀行、小学校、介護施設等である。</p> <p>市村委員 どうやって割り振ったのか</p> <p>深津校長 希望制で決定した。</p> <p>2. 議題 (1) 令和6年度全国学力学習状況調査の結果について</p> <p>深津校長 4月に実施した結果をまとめたものである。</p> <p>教科の調査（国語、数学）については、本校の生徒は国の平均より高い一方、無回答率が国の平均より高くなっているところは気になる。</p> <p>生徒質問紙については、国の平均より上回っているものを学校だよりに掲載した。具体的には、「朝食を毎日食べている」「自分はよいところがある」「いじめはどんなことがあってもいけない」等が主なものである。</p> <p>気になる項目としては、規範意識や自己有用感の部分、具体的には「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」では、国と比べて「あてはまる」と回答した生徒が低かった点である。他には、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか」についても挙げられる。</p> <p>気になるところは、どのように伸ばしていけるかを本日の会でご意見を頂きたいと思っている。</p>
--------	---

市村委員

SCの来校頻度等は？

→3人体制1人週1回程度である。曜日によって相談件数はまちまちである。

小河委員

保健室への来所は今もあるのか。

→ある。相談する生徒もいて、対応は様々である。

岩淵委員

学校だよりも芋掘り体験の様子が掲載されていたが、具体的には？

伊藤委員

6組の学習の一環である。近隣の農家さん協力のもと、実現に至った。地域とともに行える学習はとてもいい試みである。今後も継続していく方向で考えている。今後本会メンバーも人手として、積極的にお手伝いができるところもあると思っている。他校でもコミスクのメンバーも協力招集がかかると聞いている。

秋田委員

この活動に参加してみて、畑の状態もよく、生徒も丁寧に掘っていたことが印象的であった。土がとてもよかった。

市村委員

とても興味深い活動であるので、家庭科の授業にもつなげていけるのではないかな。

伊藤委員

近隣小学校では、ミシン等の授業でコミスクのメンバーが実際に協力している例もある。実施にあたっては、外部人材と教職員とのコミュニケーションを密にとる必要もある。

青木会長

それでは、この後はグループごとに分かれて、(1)全国学力学習状況調査の結果について、と(2)委員の直接体験から見えてくる生徒への関わり方について協議をお願いしたい。

Aグループ(青木会長、西塔委員、若林委員、三觜委員)

規範意識、自己有用感の部分について話し合いを行った。該当生徒が長所をどのように発信しているのか、PRする場所がどこにあるのか、ホームルームの時間なのか、休み時間なのか、うまくできているのか等話し合った。

個性の活かし方についても話題に挙がった。生徒の個性を大人がどう見極める

のかが大切である。生徒と教師のコミュニケーションの時間をどう確保するかが大切であると感じる。

Bグループ（小河委員、能勢委員、林委員、伊藤委員）

困りごとや不安がある生徒への寄り添い方等話題に挙げた。コミスクのメンバーで、生徒の愚痴を聞く機会もあっていいのではないかと。些細の愚痴の機会は大切ではないかと思う。先生からの指導のタイミングで捉え方が双方違う場合が過去も現在もある。その悶々とした気持ちを受け取れる場所や機会があるとよい。

Cグループ（岩淵委員、市村委員、秋田委員）

基本的な生活習慣（朝食、起床時刻等）の話題が主に挙げた。羽鳥中の生徒の良い面であると再確認する場となった。いじめの認識についても意識が高いところに感銘を受けた。困りごとや不安なことがあったときに、スクールカウンセラーはハードルが高いのではないかと、気軽に雑談ができる場所があるとよいのではないかと。例えば養護教諭の先生等。雑談ができる機会があるとよいのではないかと。（2）委員の直接体験から見えてくる生徒への関わり方についても話し合いを行ったが、ニーズがあれば、お手伝いからはじめていきたい旨の話し合いを行った。

能勢委員

グループディスカッションは有意義な時間であった。

青木会長

今回は最終となる。この2年間のまとめと今後の展望お話し合いたい。

深津校長

学校評価を現在進めている。その結果についてもお聞きしたい。

3. その他

特になし

4. 次回以降の会議日程

第5回 2月26日（水）13:30 ～ 本校 図書室

閉会

